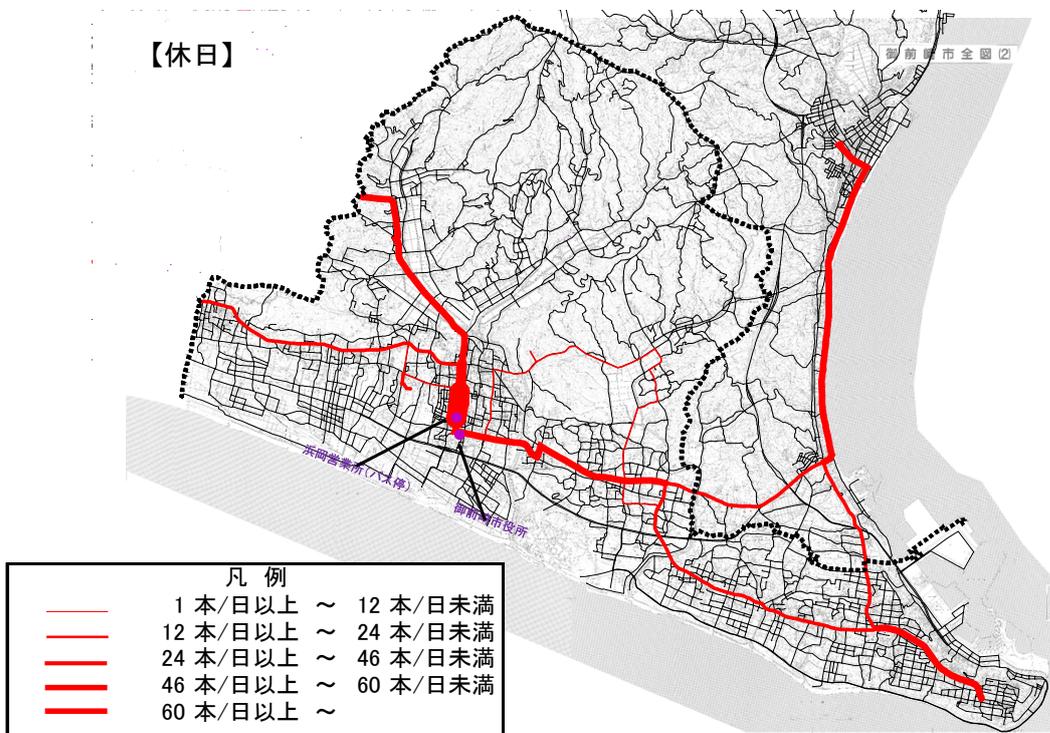
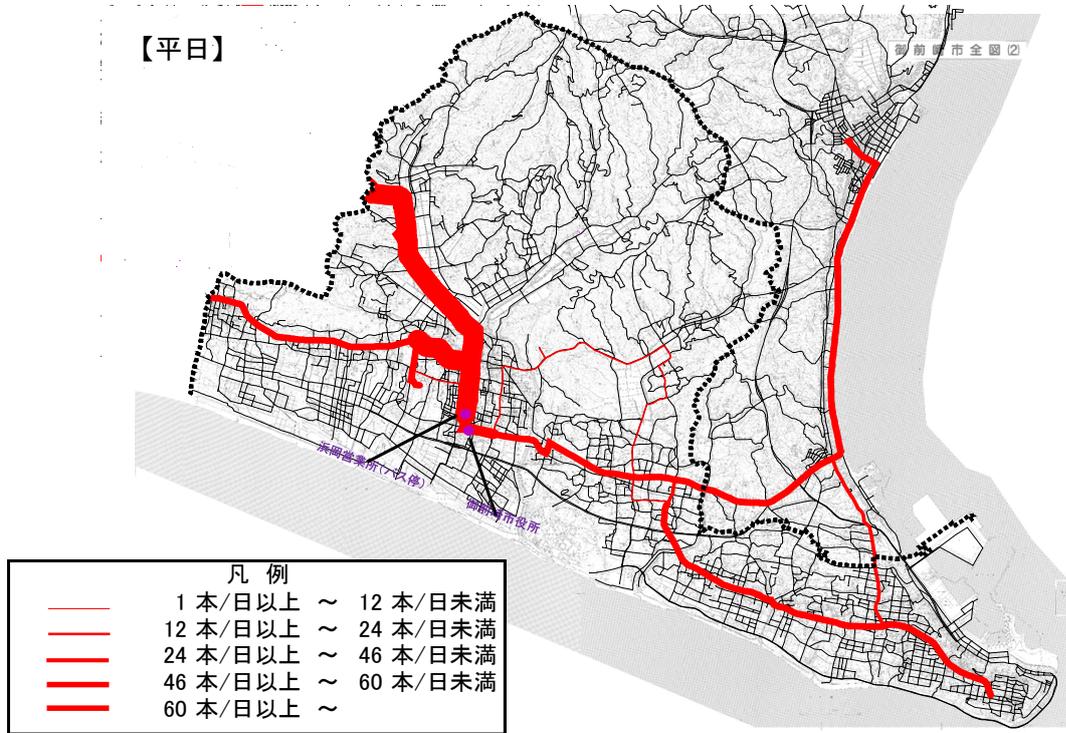


### 3) バス運行本数

- 平日のバス運行本数が多く、高校生の通学などに主に利用されているとみられる。
- 池新田地区（浜岡営業所）から菊川駅へ連絡する菊川浜岡線の運行本数が最も多い。  
（※平均して片道・1時間あたり1本は、概ね24本/日に相当する。）

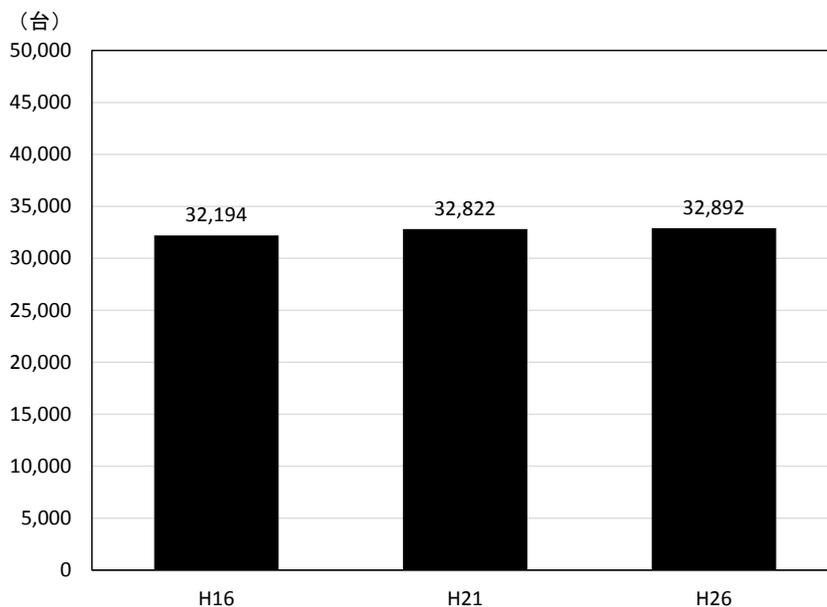


資料) 御前崎市HP、しずてつジャストライン株式会社HP  
 図 I-39 バス運行本数

### 3-2 交通特性

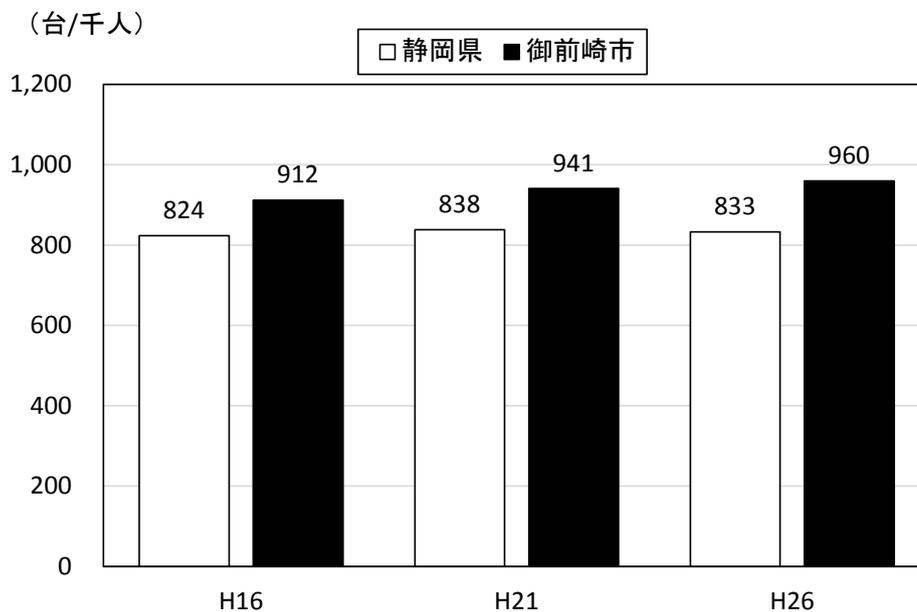
#### (1) 自動車保有台数

○御前崎市の自動車保有台数、人口当たり保有台数ともに微増傾向にある。  
(静岡県全体の人口当たり保有台数は平成21年→26年で微減)



資料) 静岡県統計年鑑

図 I-40 御前崎市の自動車保有台数



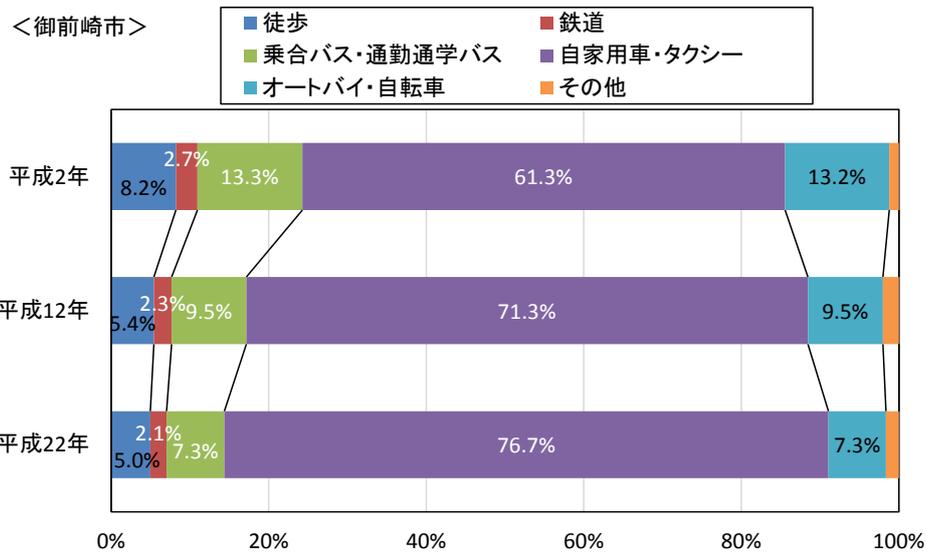
資料) 静岡県統計年鑑

図 I-41 人口千人当たりの自動車保有台数

(2) 通勤・通学目的における利用交通手段

①居住地ベース (御前崎市に居住する人の利用交通手段)

○御前崎市に居住する人が通勤・通学する際、自家用車・タクシー利用割合は平成22年で76.7%であり、経年的に上昇傾向にある。  
 ○一方、静岡県全体での自家用車・タクシー利用割合は平成22年で61.2%であり、御前崎市は自動車への依存度が高いといえる。

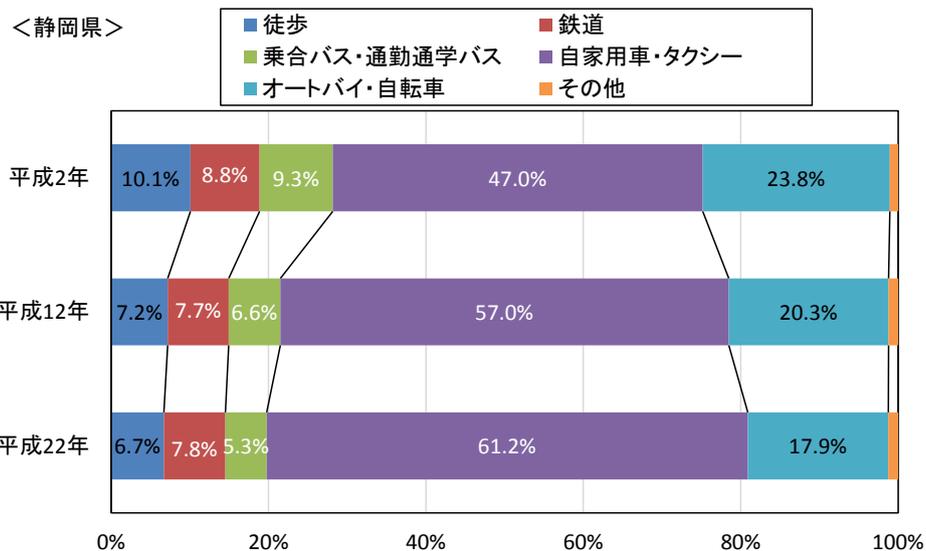


資料) 国勢調査

注) 利用交通手段は複数回答であることに注意が必要

また、複数回答のため、御前崎市居住者でも鉄道利用が存在している。

図 I-42 御前崎市に居住する人の通勤・通学時の利用交通手段割合の推移



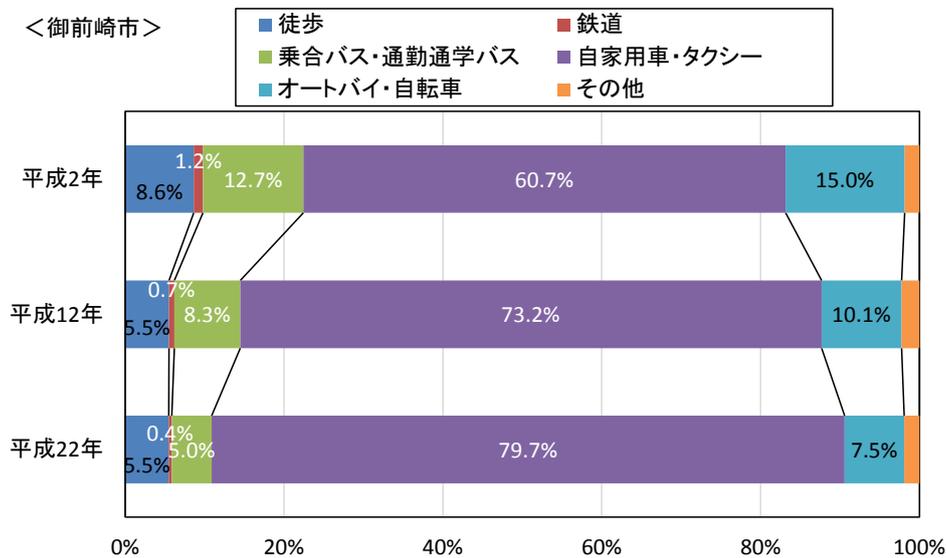
資料) 国勢調査

注) 利用交通手段は複数回答であることに注意が必要

図 I-43 静岡県に居住する人の通勤・通学時の利用交通手段割合

②従業地ベース（御前崎市へ従業・通学する人の利用交通手段）

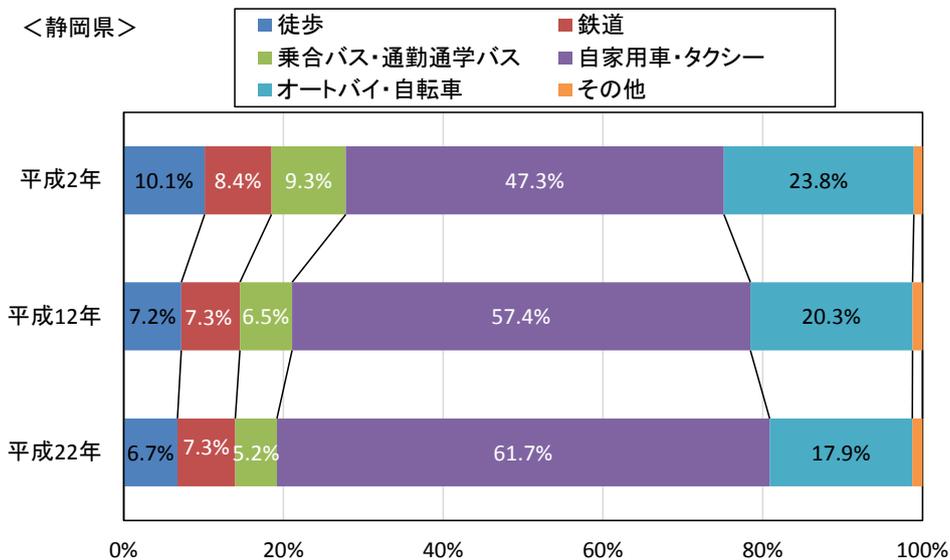
○御前崎市へ従業・通学する人が通勤・通学する際の自家用車・タクシー利用割合は、平成22年で79.7%であり、経年的に上昇傾向にある。  
 ○一方、静岡県全体での自家用車・タクシー利用割合は平成22年で61.7%であり、御前崎市は自動車への依存度が高いといえる。



資料) 国勢調査

注) 利用交通手段は複数回答であることに注意が必要  
 また、複数回答のため、御前崎市従業者・通学者でも鉄道利用が存在している。

図 I-44 御前崎市へ従業・通学する人の通勤・通学時の利用交通手段割合の推移



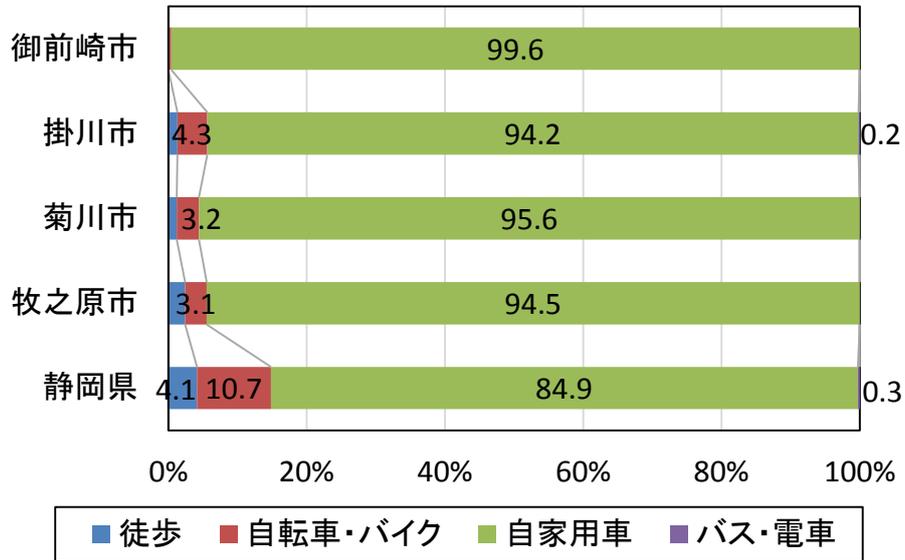
資料) 国勢調査

注) 利用交通手段は複数回答であることに注意が必要

図 I-45 静岡県で従業・通学する人の通勤・通学時の利用交通手段割合の推移

### (3) 買物の際の利用交通手段割合

○買物の際に利用する交通手段は、御前崎市ではほぼすべてが自家用車を利用している。  
なお、周辺市や静岡県全体でも自家用車利用割合は非常に高いが、御前崎市は特に高くなっている。



資料) 「平成 18 年度静岡県の消費動向」

図 I-46 食料品や日用品の店までの利用交通手段 (平成 18 年)

(4) 地域間の交通流動

1) 通勤・通学流動

【御前崎市からの通勤・通学先】

- 御前崎市内での通勤・通学流動が1万人以上と最も多い。
- 隣接する牧之原市や掛川市、菊川市への通勤・通学流動も比較的多い。

【御前崎市への通勤・通学元】

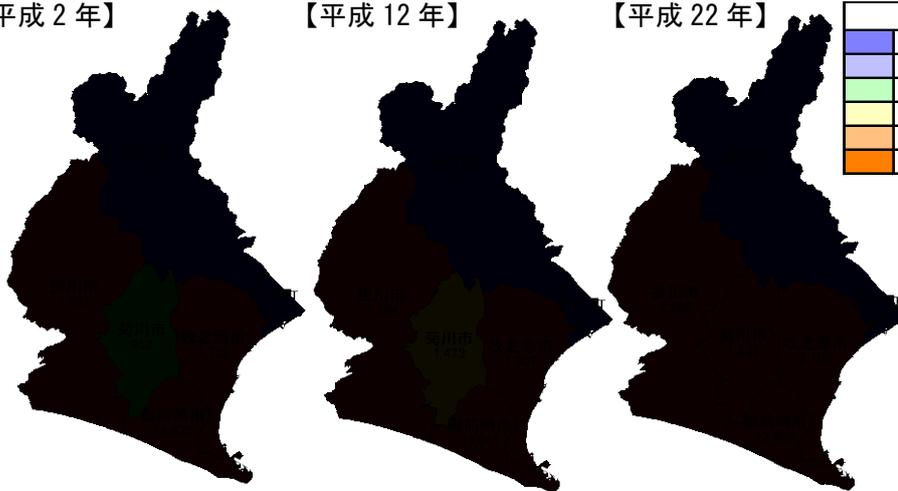
- 御前崎市内での通勤・通学流動が1万人以上と最も多い。
- 隣接する牧之原市や掛川市、菊川市からの通勤・通学流動も比較的多い。

■御前崎市からの通勤・通学流動（流出）

【平成2年】

【平成12年】

【平成22年】



凡例		
1人以上	～	150人未満
150人以上	～	500人未満
500人以上	～	1,000人未満
1,000人以上	～	1,500人未満
1,500人以上	～	10,000人未満
10,000人以上	～	

資料) 国勢調査

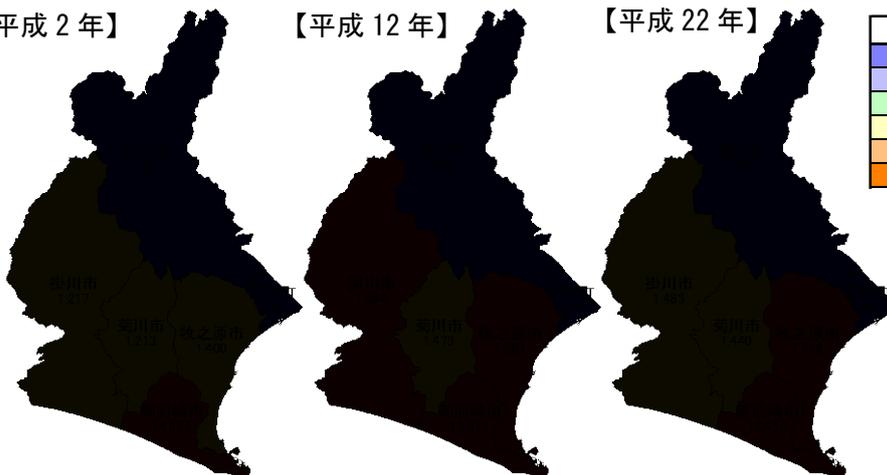
図 I-47 御前崎市からの通勤・通学先（流出）

■御前崎市への通勤・通学流動（流入）

【平成2年】

【平成12年】

【平成22年】



凡例		
1人以上	～	150人未満
150人以上	～	500人未満
500人以上	～	1,000人未満
1,000人以上	～	1,500人未満
1,500人以上	～	10,000人未満
10,000人以上	～	

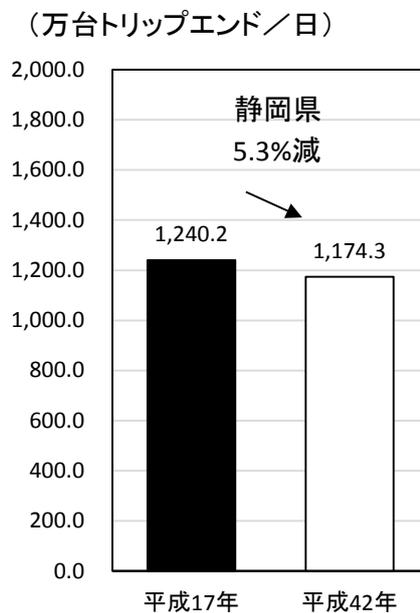
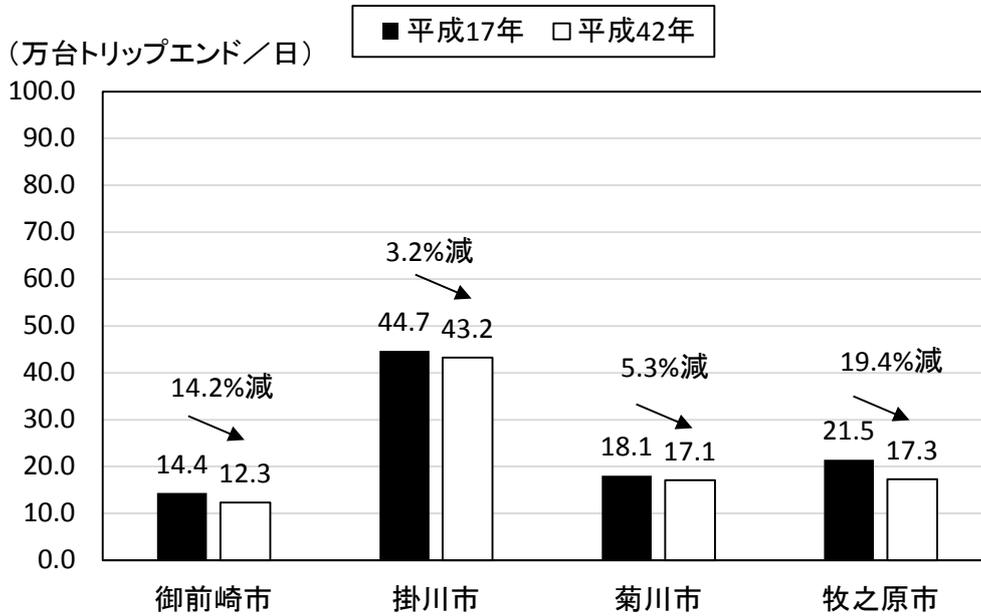
資料) 国勢調査

図 I-48 御前崎市への通勤・通学流動

## 2) 自動車の発生集中交通量

○国の推計では、平成17年（実績値）から平成42年（将来推計値）にかけての自動車発生集中量は、静岡県、御前崎市、周辺市のいずれも減少するとみられている。

※自動車発生集中量とは、ある地域に出発地または到着地を持つ人の自動車による移動回数の合計値で（通過は含まない）、トリップエンドという単位で表現される。



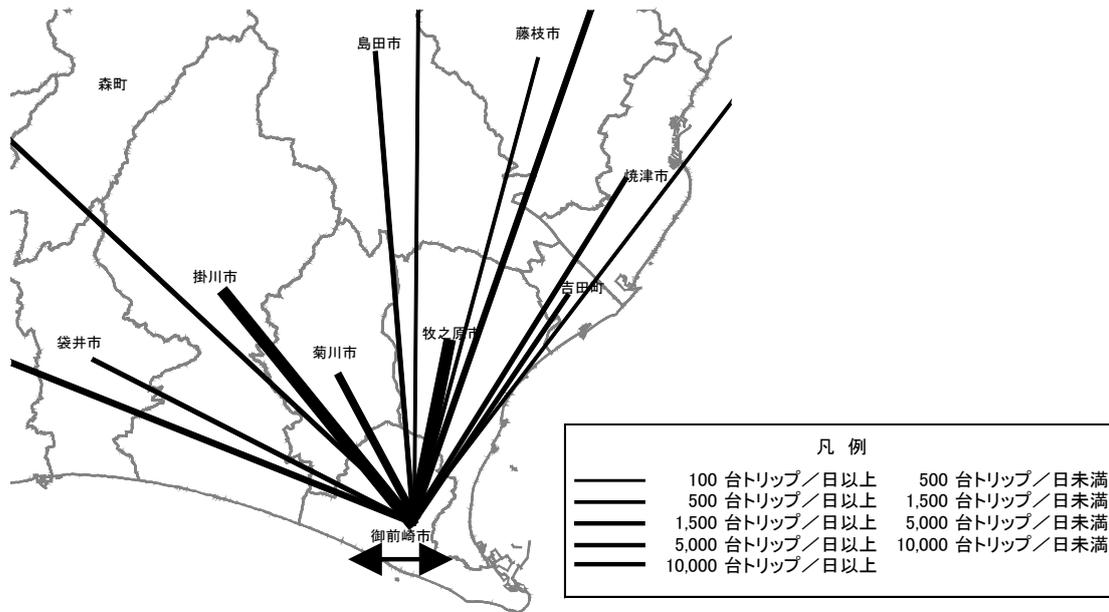
資料) 平成17年道路交通センサス  
平成42年は将来推計値

図 I-49 自動車の発生集中交通量

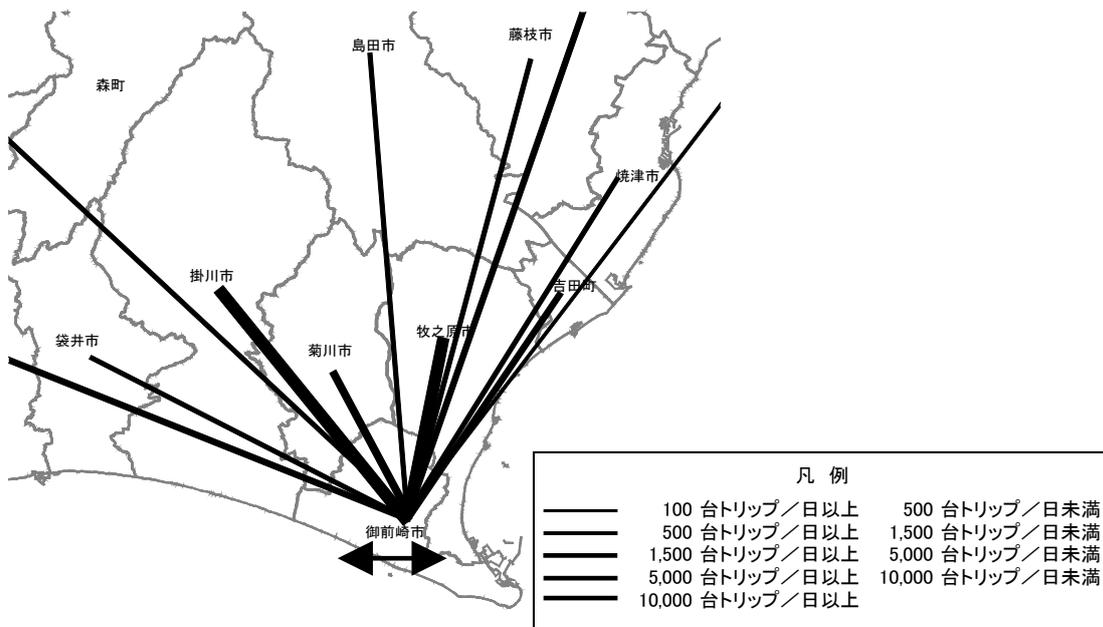
### 3) 自動車の地域間自動車OD交通量

#### ①御前崎市から広域への移動

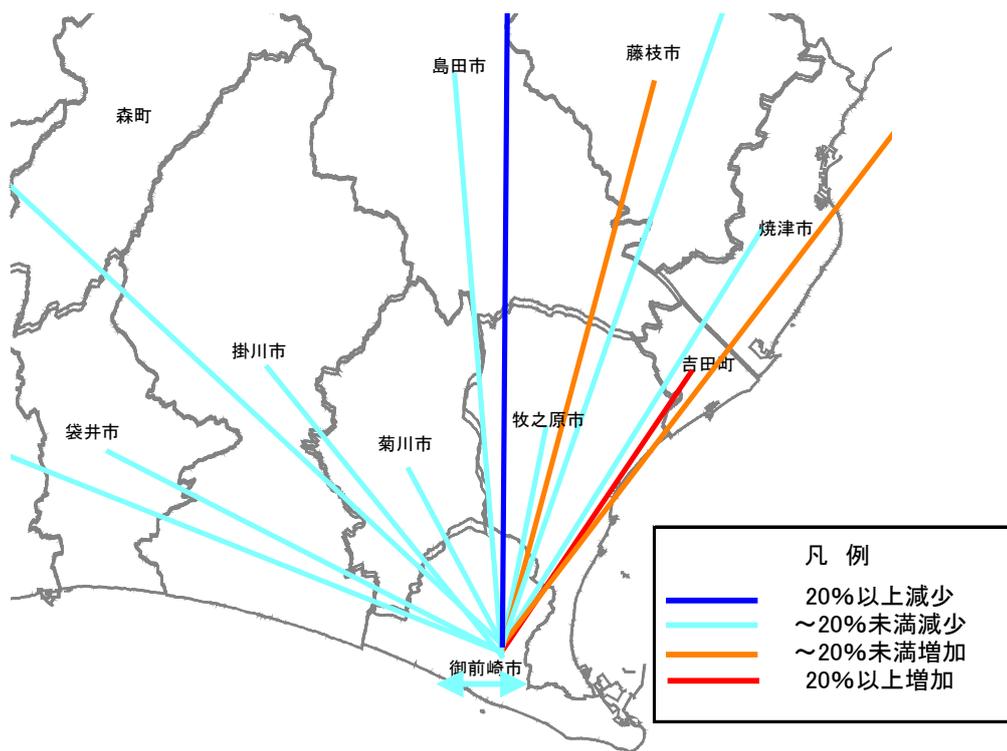
- 道路交通センサスによると、平成17年における御前崎市からの行先は、市内が最も多く、市外では、牧之原市、掛川市、菊川市の順に多くなっている。
- 平成17年（実績値）から平成42年（将来推計値）への変化を見ると、吉田町などは増加するとみられているが、御前崎市内や周辺市などへの交通量は減少するとみられている。



資料) 平成17年道路交通センサス  
 図 I-50 御前崎市・周辺都市間の自動車交通量（平成17年）



資料) 平成17年道路交通センサス  
 図 I-51 御前崎市・周辺都市間の自動車交通量（平成42年）



資料) 平成17年道路交通センサス

図 I-52 平成17年から平成42年の変化

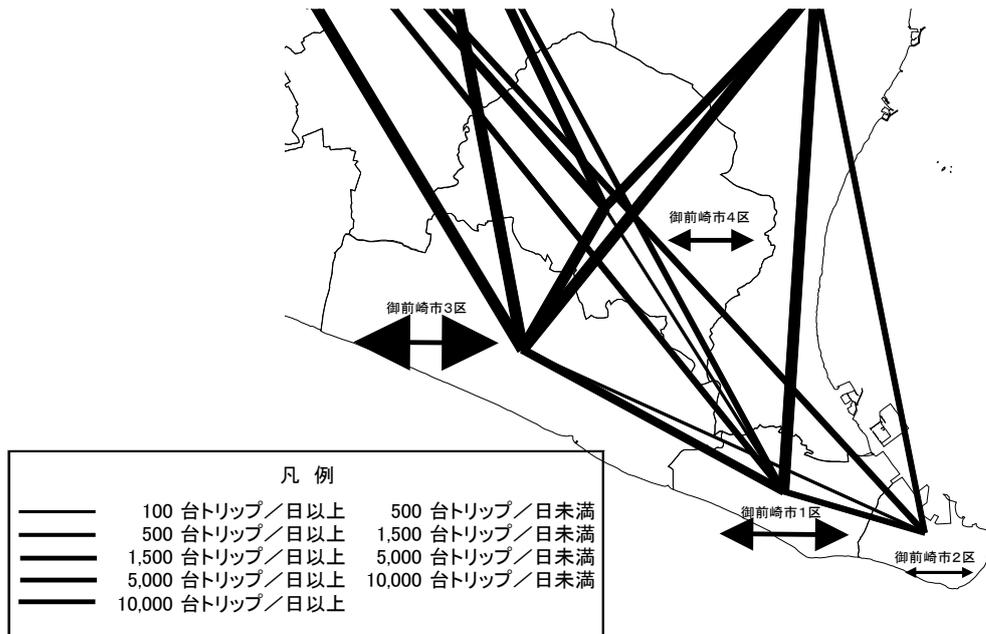
表 I-5 平成17年・平成42年の自動車交通量

相手先地域	台トリップ/日		増減率(%) H17→H42
	平成17年	平成42年	
御前崎市内々	47,701	40,108	-15.9
静岡市	1,807	1,608	-11.0
浜松市	1,496	1,361	-9.0
島田市	1,158	1,038	-10.4
富士市	186	200	7.5
磐田市	1,945	1,877	-3.5
焼津市	1,087	1,075	-1.1
掛川市	12,065	10,273	-14.9
藤枝市	480	525	9.4
袋井市	1,286	1,200	-6.7
菊川市	9,134	7,761	-15.0
牧之原市	14,976	13,059	-12.8
吉田町	1,293	1,567	21.2
川根本町	110	68	-38.2

資料) 平成17年道路交通センサス

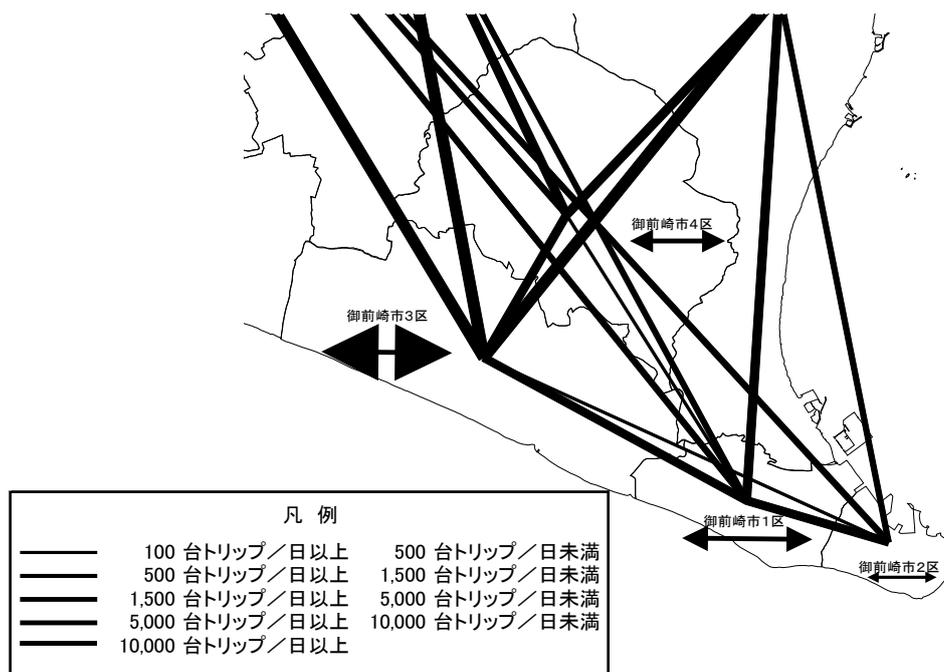
## ②御前崎市内および隣接地域への移動

- 平成 17 年では、御前崎市 3 区（旧浜岡町の市街地部）を発着する自動車交通が多く、区内や周辺市との往來が多いことがうかがえる。
- 平成 17 年（実績値）から平成 42 年（将来推計値）への変化を見ると、御前崎市 2 区（旧御前崎町の中心部）では増加、御前崎市 3 区（旧浜岡町の市街地部）では減少するとみられている。



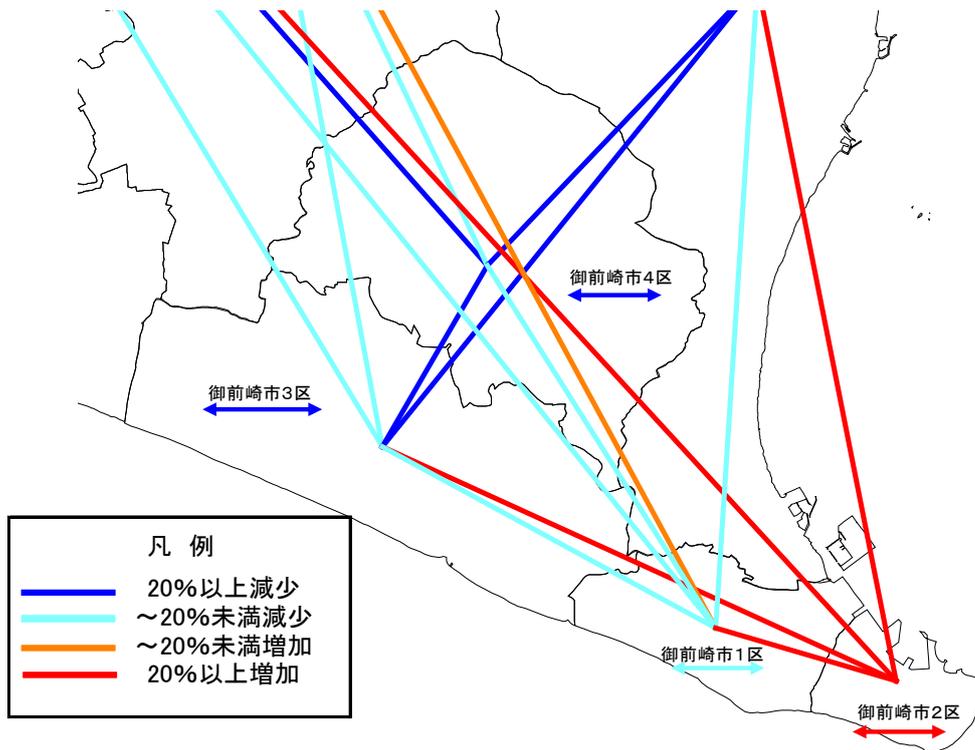
資料) 平成 17 年道路交通センサス

図 I-53 御前崎市内相互間及び隣接地域への自動車交通量 (平成 17 年)



資料) 平成 17 年道路交通センサス

図 I-54 御前崎市内相互間及び隣接地域への自動車交通量 (平成 42 年)



資料) 平成 17 年道路交通センサス  
 図 I-55 平成 17 年から平成 42 年の変化

(5) 路線別交通状況

1) 交通量、混雑度

① 路線別・区間別交通量

○ 国道 150 号、掛川浜岡線への自動車交通の集中がうかがえ、両路線が御前崎市の主要な交通処理機能を担っていることがうかがえる。

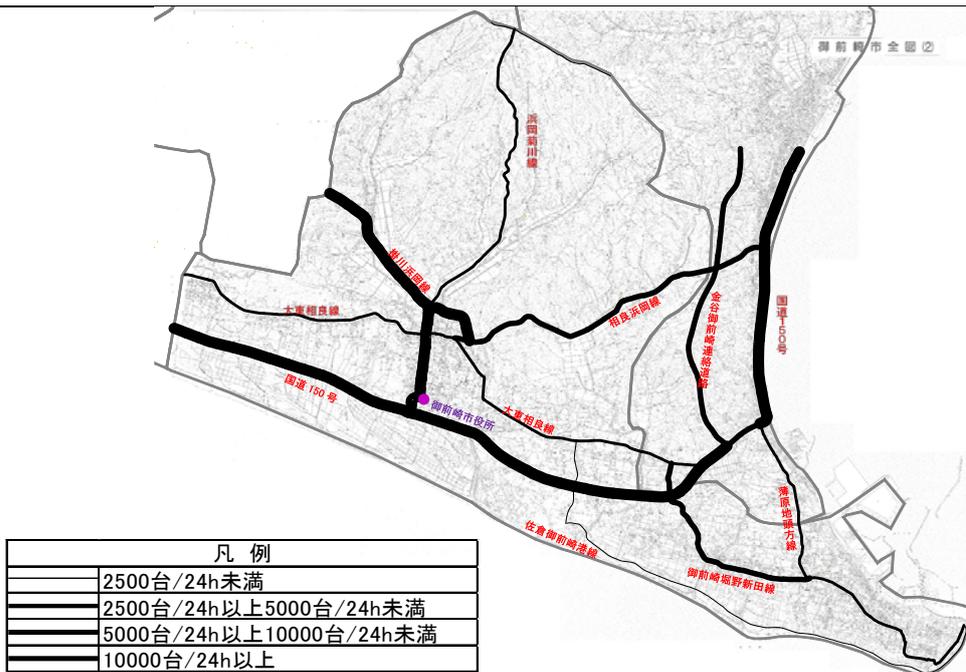


図 I-56 道路交通量(24 時間) 資料) 平成 22 年道路交通センサス

## ②路線別・区間別混雑度

○掛川浜岡線、国道 150 号の牧之原市内区間および 2 車線区間（掛川市境付近の区間）で混雑度が 1.0 を超えている。

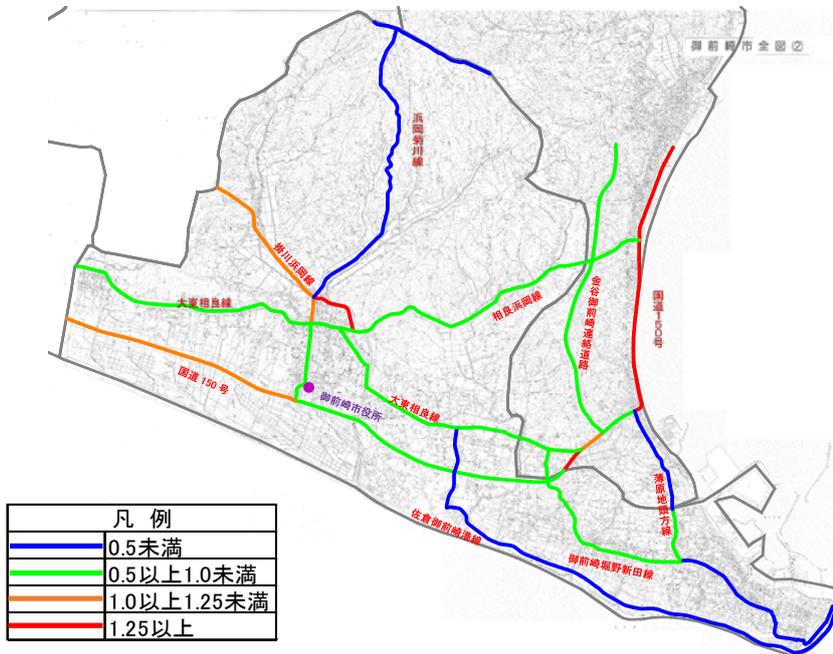


図 I-57 道路混雑度 資料) 平成 22 年道路交通センサス

## 2) 旅行速度

○御前崎市中心部の池新田地区の南北幹線である掛川浜岡線で旅行速度が低い。  
○国道 150 号は、交通量の多い路線であるが、4 車線区間を有すること、線形が良好なことから、旅行速度は高い。

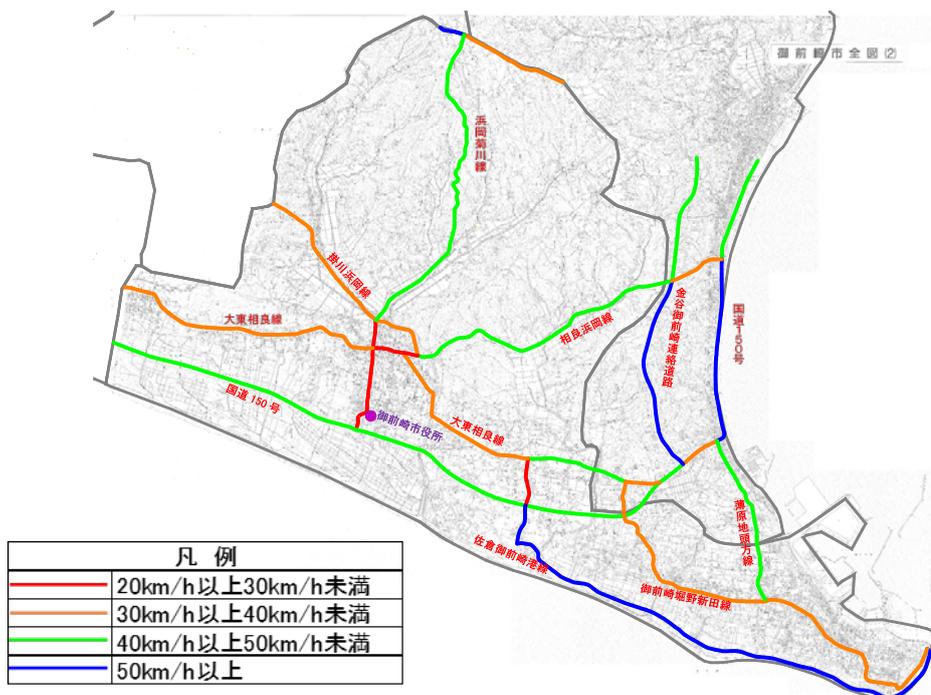
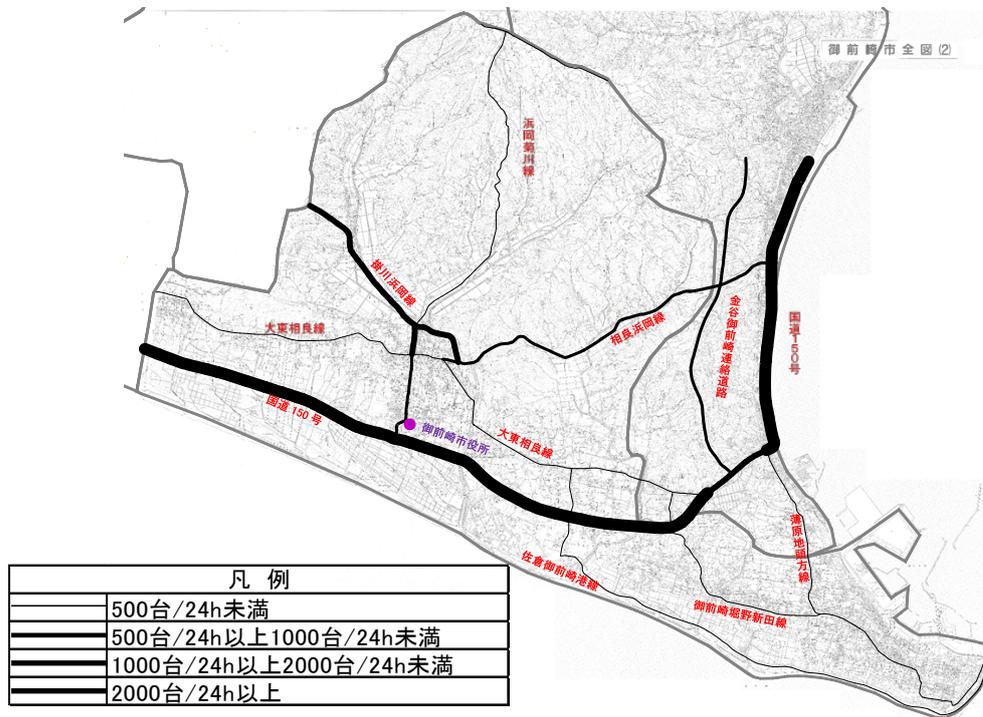


図 I-58 旅行速度(混雑時上り下り平均) 資料) 平成 22 年道路交通センサス

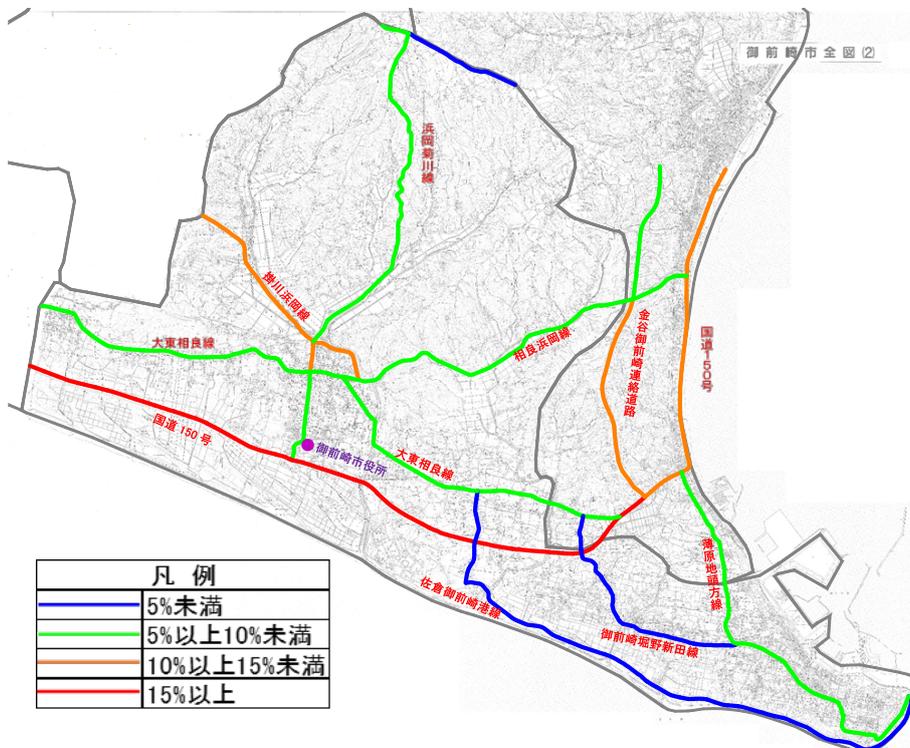
### 3) 大型車交通量・混入率

○大型車交通量は、国道 150 号へ集中しており、掛川浜岡線も比較的多くなっている。



資料) 平成 22 年道路交通センサス

図 I-59 大型車交通量(24 時間)

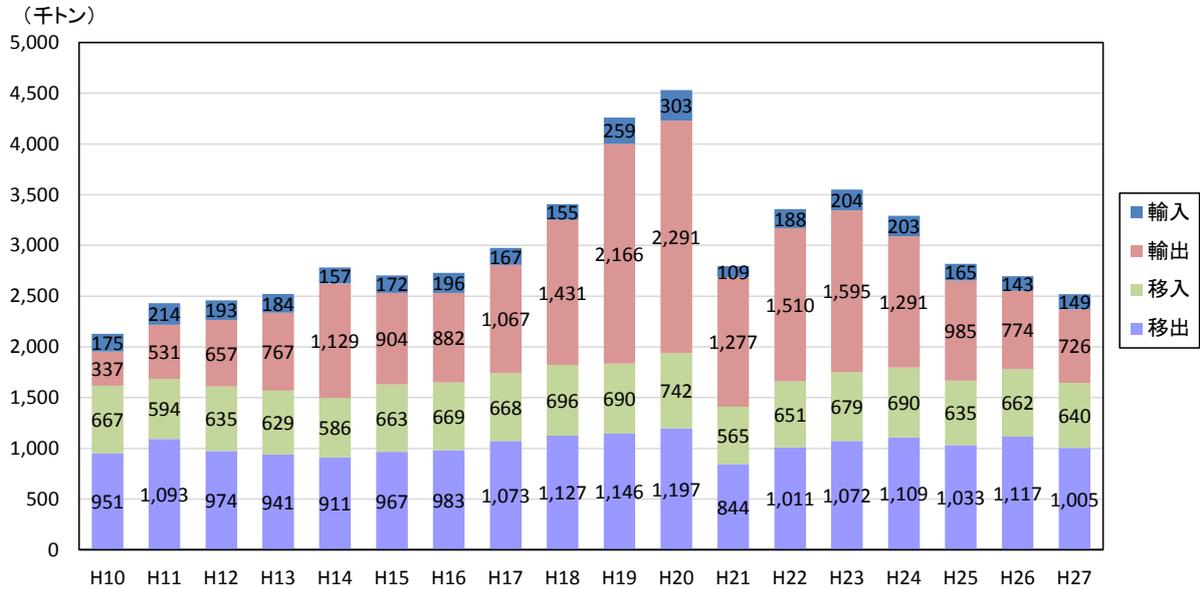


資料) 平成 22 年道路交通センサス

図 I-60 大型車混入率(24 時間)

(6) 物流（海運）の状況

○御前崎港における貨物取扱量は、平成 20（2008）年のリーマンショックを機に大きく減少し、その後、回復基調にあったが、平成 23 年の東日本大震災以降、減少傾向にある。  
 ○物流関連交通は、主に国道 150 号、臨港道路を利用している。



資料) 静岡県御前崎港管理事務所統計資料

図 I-61 御前崎港の貨物取扱量の推移